

令和 6 年 4 月 6 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00666

研究課題名（和文）生成文法における局所性条件に関するパラメータの理論的および実証的研究

研究課題名（英文）A Theoretical and Empirical Study of Parameters with Locality Conditions in Generative Grammar

研究代表者

石井 透（Ishii, Toru）

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：30193254

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：生成文法の原理とパラメータ理論において提案されたパラメータという概念は、人間言語が持つ普遍性を捉えながらも多様性も同時に説明することを通じて「記述的妥当性と説明的妥当性の緊張」を解決するものである。極小モデルでは、言語機能の中心的部分である計算システムはすべての言語で共通であるとし、言語間差異は外在化過程パラメータによって説明されると考えられている。本研究は、局所性条件の言語間差異に焦点を当て、空範疇原理効果は言語の普遍的特徴であり併合に対する制約によって説明できること、それに対して下接条件効果は韻律構造の対する制約でありその言語間差異は外在化過程パラメータを用いて説明できることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

極小モデルにおいて局所性の説明を目指し様々なアプローチが提案されてきたが、以前の枠組みで議論されていた言語間差異に関しては、極小モデルでは未だに殆ど手つかずに残っていた。さらに、韻律構造が局所性条件現象に影響を及ぼしている可能性を示唆する研究は存在するが、局所性条件の言語間差異が韻律構造の違いに依るといふ本研究での分析はこれまで提案されていない。パラメータ・局所性条件とも盛んに研究されてきた課題であるが、本研究はこれまでの研究成果を踏まえながらも、新たなアプローチでこれらの研究課題にせまったという点で学術的意義があると言える。

研究成果の概要（英文）：The notion of "parameter" proposed in the Principle and Parameter framework resolves the tension between descriptive and explanatory adequacy by explaining both universal features of languages and their crosslinguistic variations. In the minimalist model, the computational system, which is the core part of the language faculty, is assumed to be common to all languages, and crosslinguistic variations are explained by externalization parameters. Focusing on crosslinguistic differences regarding locality conditions, this study has shown that the ECP effects is a universal feature of language and can be explained by constraints on Merge, while the subjacency condition effects are explained by a constraint on prosodic structure and its crosslinguistic variations can be explained in terms of an externalization parameter on mapping between syntactic structures and prosodic structures.

研究分野：英語学

キーワード：生成文法 パラメータ 局所性条件

1. 研究開始当初の背景

生成文法のパラメータという概念は、人間言語が持つ普遍性と言語間差異を同時に説明する重要概念である。しかし、生成文法の最新の枠組みである「極小モデル」では、言語機能の中心的部分である計算システムは「併合」のみから成り、言語間変異は存在しないと主張する。従って、パラメータは PF 移送から音声表示に至る「外在化過程」に限られるべきだと考えられている。そうすると、様々な言語間差異の現象は「外在化過程パラメータ」から導き出す必要がある。しかし、これまで提案された具体的な「外在化過程パラメータ」は数が限られている。これまで提案された具体的な「外在化過程パラメータ」の考え方は、Berwick and Chomsky (2011)の *wh* 移動と語順に関する示唆、Richards (2010; 2016)の *wh* 移動・拡大投射原理・主要部移動に関する分析など少数に限られている。「局所性条件」の言語間差異に関しては、以前の枠組みでは盛んに議論されていた。しかし、極小モデルにおいては、局所性条件の説明を目指し様々なアプローチが提案されてきたが、以前の枠組みで議論されていた言語間差異に関しては未だに殆ど手つかずに残っていて、新たなアプローチでこの研究課題にせまる必要性があった。

2. 研究の目的

生成文法の原理とパラメータ理論において提案されたパラメータという概念は、人間言語が持つ普遍性を捉えながらも多様性(＝言語間差異)も同時に説明する、つまり「記述的妥当性と説明的妥当性の緊張」を解決するものである。その誕生以来、パラメータは生成文法における中心的な研究課題の一つであり、現在でもその重要性は変わらない。現在の枠組みである「極小モデル」では、「言語機能」の中心的部分である計算システムはすべての言語で共通であるとし、言語間差異は音韻部門内での「外在化過程パラメータ」によって説明されると考えられている。しかし、これまで提案された具体的な「外在化過程パラメータ」はごく少数に限られ、以前の枠組みでは盛んに議論されていた、移動(Move)/内的併合(Internal Merge)などの長距離依存関係に対する「局所性条件」の言語間差異に関する提案は未だに存在しない。そこで本研究は、「局所性条件」の言語間差異に焦点を当て、「極小モデル」のもとでの新たな局所性理論を提案すると共に、その言語間差異を「外在化過程パラメータ」を用いて説明し、それを通じて人間の認知システムの解明を目指す生成文法の進展に貢献することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究ではまず以下の二点に重点をおき研究を進めた。第一に、以前の枠組みで提案された局所性条件の言語間差異に関する議論を現在の視点から徹底的に見直し、パラメータ理論で説明すべき研究課題を抽出した。例えば、Rizzi (1982)は、英語とイタリア語の「*wh* 島の制約効果」有無という言語間変異は境界節点に関するパラメータによって説明できると主張した。さらに、Kayne (1983), Lasnik and Saito (1992), Ishii (1997; 2012c), Saito and Fukui (1998)などでは、英語などの言語では「主語条件効果」が見られるが、日本語・スペイン語・トルコ語などの言語では見られないことが指摘された。さらに、「左枝分かれ条件効果」は、英語などの言語では見られるが、フランス語・ラテン語やポーランド語・クロアチア語などのスラブ系言語では見られない (Uriagereka 1988, Corver 1990)。これらに代表される 1960 年代以降の局所性条件の言語間差異に関する研究を、それを支えた具体的な言語現象と共にもう一度現在の視点から検討した。第二に、「空範疇原理効果」は「狭義の統語論」で統語構造に適用される制約によるものと考え、極小モデルでの局所性へのアプローチについて比較・再検討した。これらのアプローチは局所性を統一的に扱おうとする試みであるが、対象とする現象を「空範疇原理効果」に絞って考えた場合、どのようなアプローチを採用すると原理的な説明が可能かを検討した。その上で、Chomsky (2021, 2023)で提案された Merge の概念(すなわち、Merge を作業空間(workspace)から作業空間への写像とみなす考え方)に基づき、「空範疇原理効果」は Merge の性質から導き出すという可能性を追求する。

以上の局所性条件の言語間差異及び Merge による「空範疇原理効果」の研究で抽出した課題をもとに、次の三点についても研究を進めた。第一に、「下接条件効果」に関しては、韻律構造に適用される何らかの制約によるものであるという可能性を追求した。本研究では、韻律構造は、統語構造とは独立しているが、写像によって結び付けられているとする「韻律構造仮説」(Selkirk 1986; 1995, Nespor and Vogel 1986 など)の立場、特に Kratzer and Selkirk (2007)などで提案されている、「位相」が韻律構造を決定するのに重要な役割を果たすという考え方を採用し、韻律構造による「下接条件効果」の説明を目指した。第二に、言語間差異が存在する局所性条件の局所領域の韻律構造には言語間差異が存在するが、言語間差異が存在しない局所性条件の局所領域の韻律構造には言語間差異が存在しないという方向を追求した。「*wh* 島の制約」・「主語条件」などで見られる「下接条件効果」に関する言語間差異は、各々の言語の韻律構造の違いに起因ことが予想し検証した。第三に、以上の作業から得られる研究成果をもとにし、これからのパラメータ理論の新たな進展に目を配りながら、局所性条件における言語間差異に関して「外在化過程パラメータ」による説明を目指した。

4. 研究成果

本研究は研究課題として、以下の二点を設定しそれを明らかにした。(1)「下接条件効果」には言語間変異が存在するが、「空範疇原理効果」には言語間変異が存在しないのは何故か。(2)「下接条件効果」の中でも、その効果に言語間差異が存在するのは、「wh島の制約」・「主語条件」・「左枝分かれ条件」などに限られ、「複雑名詞句制約」・「付加詞条件」などには言語間差異が存在しないのは何故か。

第一に、上記(1)に関して、以前の枠組みでの「下接条件効果」及び「空範疇原理効果」の現象を説明することができるような、極小モデルでの新たな局所性理論を提案した。これまでの研究では、「下接条件」及び「空範疇原理」を含むすべての局所性条件は、「狭義の統語論」において、統語構造に適用されるものと考えられてきた。それに対して、本研究では、「空範疇原理効果」は「狭義の統語論」で統語構造に適用される制約によるものであるが、「下接条件効果」は、音韻部門内での写像（「外在化過程」）で、韻律構造に適用される制約によるものであるという新たな提案を行った。これにより、「下接条件効果」は顕在的移動にしか見られないが、「空範疇効果」は顕在的・潜在的移動に見られるという事実も自然に導き出せることを示した。これに付随し、これまでの極小モデルでの局所性に関する研究では、局所性条件に関する統一的説明を目指しているのに対して、本研究では、局所性はあくまでも偶発現象(epiphenomena)であり、狭義の統語論及び音韻部門という異なる部門における制約によるものであると主張した。第二に、局所性条件における言語間差異が説明できる、外在化過程パラメータによる分析を提案した。「下接条件効果」が外在化過程での制約によるとする本研究の方向性が正しければ、「下接条件効果」に言語間差異が存在することは、外在化過程パラメータの考え方に一致することになり、「進化的妥当性」を満たすパラメータ理論の発展に貢献することができた。第三に、上記(2)に関して、「下接条件効果」の中でも、その効果に言語間差異が存在する局所性条件と、言語間差異が存在しない局所性条件があるのは何故かを明らかにした。言語間差異が存在する「wh島の制約」・「主語条件」・「左枝分かれ条件」などの局所性条件は、その局所領域の韻律構造に言語間差異が存在するが、言語間差異が存在しない「複雑名詞句制約」・「付加詞条件」などの局所領域の韻律構造には言語間差異が存在しないことを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Goto Nobu and Toru Ishii	4. 巻 41
2. 論文標題 Seeking an Optimal Design of Search and Merge: its Consequences and Challenges	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Linguistics Review	6. 最初と最後の頁 119-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goto Nobu and Toru Ishii	4. 巻 25
2. 論文標題 Deriving ATB from Box System	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 25th Seoul International Conference on Generative Grammar	6. 最初と最後の頁 22-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Brian Agbayani and Toru Ishii	4. 巻 30
2. 論文標題 Multiple Topicalization in Japanese	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese/Korean Linguistics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Toru Ishii and Brian Agbayani	4. 巻 38
2. 論文標題 On multiple sluicing in Japanese	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the Thirty-Eighth West Coast Conference in Formal Linguistics	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toru Ishii and Brian Agbayani	4. 巻 15
2. 論文標題 Japanese multiple cleft constructions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MIT Working Papers in Linguistics: Proceedings of the 15th Workshop on Altaic Formal Linguistics, Cambridge	6. 最初と最後の頁 1/14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Toru Ishii and Nobu Goto	4. 巻 35
2. 論文標題 Where does Determinacy Apply?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of Sophia University Linguistic Society	6. 最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 XII
2. 論文標題 Dual" Selectional Restrictions on Complementation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the GLOW in Asia XII and SICOOG XXI	6. 最初と最後の頁 324-342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii and Nobu Goto	4. 巻 XII
2. 論文標題 The Principle of Determinacy and Its Implications for MERGE	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the GLOW in Asia XII and SICOOG XXI	6. 最初と最後の頁 91-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井透	4. 巻 96
2. 論文標題 書評「理論言語学史」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英文学研究	6. 最初と最後の頁 161-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 36.2
2. 論文標題 Review of Norvin Richards (2016) "Contiguity Theory"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 69-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 90
2. 論文標題 Japanese Multiple Right Dislocation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 MIT Working Papers in Linguistics 90: Proceedings of the 14th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFL 14)	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 54
2. 論文標題 On Multiple Right Dislocation in Japanese	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 54th Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society (CLS 54)	6. 最初と最後の頁 195-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 13
2. 論文標題 A Movement Analysis of Japanese "Gapless" Relative Clauses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 13th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFLL 13)	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 20
2. 論文標題 A Uniform Analysis of EMC/Transitive and Bridge Verb Constructions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Syntax-Phonology Interface in Generative Grammar (Proceedings of the 20th Seoul International Conference on Generative Grammar)	6. 最初と最後の頁 109-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Ishii	4. 巻 34
2. 論文標題 On so called "Gapless" Constructions in Japanese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 173-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 24件)

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 Toward Elaboration of Box System: ATB and Improper Movement
3. 学会等名 Generative Linguistics in the Old World 13 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 A Box Analysis of ATB and its Implications
3. 学会等名 The 41th Annual Conference of the English Linguistic Society of Japan
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 A Form Copy analysis of Left Branch Extraction
3. 学会等名 Workshop: Factors in Natural Language Design (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 Deriving ATB from Box System
3. 学会等名 The 25th Seoul International Conference on Generative Grammar (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Brian Agbayani and Toru Ishii
2. 発表標題 Multiple PP Topicalization in Japanese
3. 学会等名 The 13th International Workshop on Theoretical East Asian Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Brian Agbayani and Toru Ishii
2. 発表標題 Multiple Topicalization in Japanese
3. 学会等名 The 30th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 Resource Restriction-Obedient Search and Free Merge
3. 学会等名 Generative Linguistics in the Old World 13 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 Resource Restriction-Obedient Search on Merge: A Unified Account of Movement Phenomena
3. 学会等名 The First International Conference on Biolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 Dissociating Merge from Minimal Search and Associating Search to Resource Restriction
3. 学会等名 ELSJ International Spring Forum 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toru Ishii and Nobu Goto
2. 発表標題 Where does Determinacy Apply?
3. 学会等名 上智言語学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 Multiple Cleft Constructions in Japanese and the Externalization Parameter Hypothesis
3. 学会等名 The 12th Conference of Hokkaido Theoretical Linguistic Society
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ishii and Brian Agbayani
2. 発表標題 On Multiple Sluicing in Japanese
3. 学会等名 The 38th Meeting of the West Coast Conference in Formal Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 Restricting Accessibility to MERGE - A Deterministic Theory of Movement -
3. 学会等名 English Linguistic Society of Japan 13th International Spring Forum 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ishii and Brian Agbayani
2. 発表標題 Syntactic and Prosodic Sluicing in Japanese
3. 学会等名 The 28th Japanese/Korean Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ishii and Nobu Goto
2. 発表標題 A Role of Case in ATB Interpretations
3. 学会等名 第38回日本英語学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 A Restriction on Ambiguous Rule Applications and its Consequences
3. 学会等名 Western Conference on Linguistics 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 Japanese Gapless Constructions - A Movement Approach -
3. 学会等名 The 11th Conference of Hokkaido Theoretical Linguistic Society
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Ishii and Brian Agbayani
2. 発表標題 On Multiple Cleft Constructions in Japanese
3. 学会等名 The 55th Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 MERGE + Determinacy in Phase Theory: A Comparative Study of Movement Restrictions
3. 学会等名 Cambridge Comparative Syntax Conference 8 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 A Conspiracy of MERGE and Determinacy: A New Analysis of Movement Phenomena
3. 学会等名 The 29th Colloquium on Generative Grammar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 A Movement Analysis of Japanese "Gapless" Constructions"
3. 学会等名 The 12th International Workshop on Theoretical East Asian Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 "Dual" Selectional Requirements on Complementation
3. 学会等名 Generative Linguistics in the Old World 12 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 The Principle of Determinacy and its Implications for MERGE
3. 学会等名 Generative Linguistics in the Old World 12 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Brian Agbayani and Toru Ishii
2. 発表標題 Japanese Multiple Cleft Constructions
3. 学会等名 The 15th Workshop in Formal Altaic Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 The Determinacy Theory of Movement
3. 学会等名 The 50th Annual Meeting of the North East Linguistics Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Ishii and Nobu Goto
2. 発表標題 MERGE and Determinacy
3. 学会等名 HTLS 10 (The 10th Conference of Hokkaido Theoretical Linguistic Society)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobu Goto and Toru Ishii
2. 発表標題 Some Consequences of MERGE and Determinacy
3. 学会等名 ELSJ 11th International Spring Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 On Multiple Right-Dislocation in Japanese
3. 学会等名 The 54th Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 A Uniform Analysis of the Transitive/ECM and Bridge Verb Constructions
3. 学会等名 the 20th Seoul International Conference on Generative Grammar (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toru Ishii
2. 発表標題 Japanese Multiple Right-Dislocation
3. 学会等名 The Thirteenth Workshop in Formal Altaic Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Toru Ishii's Homepage http://www.isc.meiji.ac.jp/~tishii/index.html
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------